

過去の【今月のコラム】 2023年2月:コラム

カイロより冷えピタ持参の受験生??



一年で最も寒い時期に突入しましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。
子どもの発達支援を考えるSTの会で研修委員をさせていただいております福永と申します。
平日は福岡県の大学でST育成、平日の夜と休日は主夫として家族に仕えております。

さて、1月~2月という真冬のこの時期、勤務先の大学では国家試験指導の最盛期を迎えます。学生さんに対する個別指導を毎日繰り返し、知識の習得を図ったり、心理的なフォローを行ったり。同時に、1年生から4年生までの体調管理も徹底して行っております。登校前の体調報告とそのチェックをし、全学生のその日の登校の可否を厳しく判断します。受験生の輪の中に新型コロナウイルスやインフルエンザウイルスが持ち込まれないように、厳重に注意を払っているのです。今年も成人式に参加した学年でコロナ陽性者やインフルエンザの罹患者が目立っています。最終学年である受験生の頑張りが水の泡にならないように、年に一度のビッグイベントに向けて最大限の感染対策に学科をあげて取り組みます。

年に一度の大事な国家試験受験に関してですが、厚労省はコロナ陽性である受験生の受験を認めておりません。また、試験会場入り口でのカメラによる検温で37.5度以上の場合は抗原検査キットによる検査を実施し、受験可否を決定するという方針も打ち出しています。試験当日に会場まで行けたのに門前払いをされる受験生が発生するわけです。当日の試験会場内でコロナ感染を未然に防ぐという心意気は理解できますが、先日実施された大学共通試験とは異なり、国家試験では受験生への救済措置がありません。「国家試験の追試験は実施しない」というニュース。3年前は大きく取り上げられましたが、最近では全く聞かれなくなっています。

今年度も早い段階から、医療や福祉の関係団体が国へ追試の実施を何度も求めていたのですが、国からの回答は、コロナ陽性者で未受験となった場合は受験料を返金するとの措置が新たに追加されるということのみで、追試験未実施の方針に変更はみられませんでした。そのブレない態度の根拠には、従来から心身の不調を理由とした追試は実施していない事であったり、同程度の問題を作成する期間がなかったりなどの理由を述べられているようですが・・・、私には到底理解できません。

現在、感染対策を徹底してもコロナに罹患する人が多くいらっしゃいます。実は4日前に5歳の次男から長男と長女へ、その後私もコロナに感染しました。職場復帰までは後2日の自宅療養ができますが、本当に戻れるのか心配なくらい現在も体調は良くありません。後遺症のことも心配です。テレビやインターネットニュースでは、感染しても無症状であったり軽症であったりなど、コロナウイルスを軽視するようなコメントを見聞きするようになりましたが、一方で、死亡した方の情報や私たちのように重い症状が出てしまう方々がいることの報道はあまり詳しく取り上げなくなつたように感じます。

第8波がピークを迎えて感染者数が減少傾向にあるという報道がある一方で、感染者の実数にカウントされていない「隠れ感染者」の存在が気になっていたのですが、そこにきて、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けを「5類」に引き下げるとの総理の表明です。この表明によって、人々のコロナへの警戒が緩み、感染リスクがなお一層高まるのではないかと心配しています。STを目指して努力を続けている受験生が罹患すれば、数日間は勉強できない状態に陥ると思います。いま罹患することで十分な追い込みをかけられなくなる場合もあります。未だにインフルエンザのような特効薬はありませんし、後遺症対策も十分でないのに、軽視するのはいかがなものかと思えてなりません。

言語聴覚士の国家試験において追試験を設けられないことや、世の中のコロナウイルスに対する警戒が薄れることによって、受験生が抱えるプレッシャーはコロナ前とは比べものにならないくらいに増大しています。現在は、努力だけで感染を回避することは不可能です。2月18日の国家試験会場に入るまで、受験生も私たちも感染対策を講じながら、入り口の検温カメラの数値が37.4度以下を示すことを祈るしかありません。「あ!カイロを持たせずに冷えピタを持たせたらいいかも・・・」。試験会場に入ることがある意味奇跡のようなものです。

少しでも多くの後輩言語聴覚士が誕生できるように、2月18日は皆さんもご声援をお願いいたします。

2023年2月 子どもの発達支援を考えるSTの会 運営委員 福永陽平

2023年1月:コラム

「新運営委員の感想」



皆さま、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

今年はどんな一年になるのでしょうか。また、どんな一年にしていきたいのでしょうか。私はちょうど1年ほど前に、そろそろ子どもSTの会の運営委員やってみようかなあと思い、こうして今コラムを書いているところです。

私が運営委員になりたいと思った理由はいくつかありますが、最大の理由は、運営委員の皆さんが楽しそうということ！皆さんの顔がイキイキしていて、そんな方達が集まっているからこそ、いつも良い会が継続されているのだと思います。自発的に挙手して何かに取り組むことってすごく素敵なことですよね。

この間、臨床現場でも自発性は大事だなと思うことがありました。その男の子は年長さんで、そろそろ平仮名が読めるようになってほしいと思い、支援目標にも掲げ、毎回STのセッションでは平仮名の読み練習を行っていました。しかし、どうもうまくいっている感じがせず、本人も楽しくなさそう。これはちょっと方針転換したほうがいいのか、と思い始めていた頃。STのセッションを行うためにその子を呼ぶと...「お勉強は!!小学生になってから!!する————!!!!」と派手に拒否。ごもっともだと思い、一人大反省会。その後いろいろな葛藤の中、結局ゲーム感覚で遊ぶ中に平仮名を織り交せていたのですが、ある日、またその子が叫び始めました。「早く勉強したい！お勉強の部屋行こう！」今度はどうした?!と思いつつ、さっそくセッションを実施。なぜか急に平仮名が読めるようになっていて、いつもよりも200%増しで落ち着いて課題に取り組んでいる。終わってから保護者にお話を伺うと、保育所で女の子にお手紙をもらって、その返事を書きたくて勝手に覚えたとのこと。その動機は何よりも代えがたい...負けたわ...と思ったのでした。

つまり、本人がやりたいと思えるようなことを提案できているか、ということは基本中の基本。楽しく、やりたいと思わないことには何も身に付かないのだなと改めて教えられました。目標を掲げていると特に焦りも出てきます。私の勤め先は児童発達支援の事業所なので、就学と同時に子どもたちは卒業してしまうため、余計に残りの期間でなんとかしないと!という気持ちでいっぱいになってしまいます。でも、何事にも適切なタイミング、適切なペースがあるのだと思います。別に周りとは絶対一緒のペースでないといけないということはないし、その子にとって最適なタイミングを見つけることも私たちの仕事なのかなと思いました。

さて、運営委員になって実際どうだったのか。

今までよりももっと身近に子どもSTの会を感じることができています。無理のない範囲で今年もお手伝いできればと思っております。もし、皆さんの中で「今がそのタイミングかな?」と感じられた方がいらっしゃれば、お仲間になりませんか？

2023年1月 子どもの発達支援を考えるSTの会 運営委員